

「ノシアック」プロセスを意識した  
カリキュラム構想と実践  
——英語科の授業と総合的な学習／探究の時間・  
特別活動をつなげる視点で——

中 島 義 和

Curriculum Design and Practices  
with an Awareness of the “KnoThiAc” Process  
——From the Perspective of Connecting English Classes  
with Period of Integrated Study, Period for Inquiry-Based  
Cross-Disciplinary Study and Tokkatsu (Student-Led Activities)——

NAKASHIMA Yoshikazu

**Abstract**

This paper reports on English class practices developed through the “KnoThiAc” process proposed by the author, from the perspective of connecting them to Period of Integrated Study, Period for Inquiry-Based Cross-Disciplinary Study and so on. “KnoThiAc” is a term coined by the author from the initial letters of the words “Know - Think - Act”. The author will show that this process, which has been implemented as collaborative problem-solving learning on the theme of “peace” in English classes, can be used as a generic process for Period of Integrated Study, Period for Inquiry-Based Cross-Disciplinary Study, and Tokkatsu (Student-Led Activities), and so on.

キーワード：「ノシアック」：KnoThiAc, カリキュラム・マネジメント：Curriculum Management, アクティブ・ラーニング：Active Learning, 総合的な学習／探究の時間：Period of Integrated Study／Period for Inquiry-Based Cross-Disciplinary Study, 特別活動：Tokkatsu (Student-Led Activities)

1. はじめに

小学校学習指導要領・中学校学習指導要領（いずれも平成29年告示）（いずれも文部科学省、

2017) および高等学校学習指導要領(平成30年告示)(文部科学省, 2018)では, 授業等を通して, 児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」を創出することが求められている。また, それを実現させる学びの形の一つとしてのアクティブ・ラーニングが提唱されてきた。本稿では, そこで求められる「主体的・対話的で深い学び」創出を目的としたアクティブ・ラーニングを実現させるための一つの手立てを構想し, 実践したものを報告する。ここでは, 石井(2015)が説明する「教科する(do a subject)」という教科の本質を探究する学びを踏まえつつ, その学びや活動のプロセスを示し, 学習者に意識させることで, 学習や活動の効率と質を高めていくことをねらっている。本プロセスモデルを活用した授業・活動実践例とアクティブ・ラーニングの視点を関連づけ, その有用性・汎用性を示す。

次章では, 「ノシアック(KnoThiAc)」のプロセスとアクティブ・ラーニングについて概観する。そして, 第3章では, 英語科という教科の視点から構想・実践した事例を紹介し, 第4章では, そのプロセスを中学校の総合的な学習の時間や特別活動で実践した事例を紹介する。

## 2. 「ノシアック(KnoThiAc)」とアクティブ・ラーニング

### 2.1. 「ノシアック(KnoThiAc)」

「ノシアック(KnoThiAc)」(図1)とは, 「Know(知る)―Think(考える)―Act(動く)」のプロセスで学習を進めていく一つの学習モデルである。筆者が2010年に造語としてつくり, 生徒たちに意識づけを行ってきたものである。それぞれのプロセスの学習内容を概観する。

まず, 第1段階としての「Know(知る)」である。このプロセスでは, 次の段階につなげるために, あるいは進むために必要とされる知識や情報を得る。英語科の授業・学習では, 読み物や映像, リスニング教材等からのインプットを想定し, できる限り英語を活用し, 英語を媒介とした学習が進められるように教材を工夫する。他の教科等の学習では, 図書館やデジタル

| プロセス           | プロセスにおける学習活動のイメージ                                    | 英語科の授業・学習における学習活動   |
|----------------|--|---|
| 知る<br>(Know)   | 入れる(自己を対象世界に浸らせる・自己に知識や情報を取り込む)                      | Input:英語で読む・聴く・見る<br>【Reading / Listening / Watching】                                       |
| 考える<br>(Think) | 広げる・深める(「知る」段階で得た対象世界に関する情報等を自己とつなげて課題を見出だし考えを広げ深める) | Intake:日本語で考えや意見を共有・交流し, 広げたり深めたりする。<br>【Thinking / Sharing】                                |
| 動く<br>(Act)    | 発する(「知る」・「考える」段階を活かして, 自己の考えや表現を対象と目的を意識して発信する)      | Output:英語で発信・発表したり, やり取りしたり, 書いて表現したりする。<br>【Speaking (Interaction / Production) / Writing】 |

図1 「ノシアック(KnoThiAc)」プロセスの学習活動

デバイスを活用した調べ学習，インタビューや訪問学習，講演等を通して，知識や情報，背景などを獲得する学習活動をこの段階に位置付ける。いずれにせよ，既習事項を活用しつつ，未習事項と主体的に出会っていく過程や知識・情報獲得のための多様な手段・方法・媒体を適切に取捨選択し，未知なるもの・こと・人と出会っていく経験を期待したい学習段階でもあると言える。

次に，第2段階としての「考える（Think）」である。第1段階で得た多種多様な知識・情報などをもとに，自ら主体的に課題を見出し，あるいは設定し，その解決に向けて学習の拡張と深化を目指すプロセスである。このプロセスでは，課題に対しての自分なりの「問い」や「考え」を創り，それらを他者と対話的に交流することで，自らの思考に変容と深化がもたらされることを期待している。英語科の授業・学習では，英文法・語法・語彙等の使い方を他者と話し合ったり，鑑賞した映画のある場面が暗示する内容について意見を交わしたり，英語劇をグループで創作する活動において，目的・場面・状況に応じたセリフを吟味したり等が例として考えられる。また，他の教科等の学習においても，テーマに即して，解決すべき課題等に協働的にアプローチする活動を想定している。ここでは，他者との関わりや交わりが学習者の学びの質を深めることを期待したい。その学習活動場面では，多くの対話が生まれ，課題解決を目指して，構成員が一つとなり協働的に取り組む姿が見られる。

そして，最終段階としての「Act（動く）」である。前段階で他者と協働して議論した課題の解決に向けて，行動を起こすフェイズとなる。英語科の授業・学習では，前段階での議論・検討の成果を，対象や目的を意識して，英語を用いて発信・やり取りをするアウトプット活動のプロセスとなる。他の教科等の学習でも，同様にプレゼンテーション活動を行ったり，社会や世界とつながるアクションを創り出したりすることを求めている。

このようにパターン化された学習プロセスを，各段階での学習活動内容を表す動詞にちなみ，その頭文字から「ノシアック（KnoThiAc）」と名付け，日本語では，「知・考・動」として示す。本プロセスの明示により，各教科の学習，総合的な学習／探究の時間，学級活動や学校行事の準備，委員会活動等の特別活動のみならず，学校内外の諸場面で自然かつスムーズに本プロセスを意識して，効率的に学びや活動の質を高められるようになることを期待する。また，その経験を通して，学習者個々が主体的に学びに向かう態度を育てるとともに，他者と対話的・協働的にその学びを深めていくこともねらう。

## 2.2. 英語科の授業におけるアクティブ・ラーニング

英語科の授業においてアクティブ・ラーニングを効果的に行うためには，まずはその下地づくりとしての教科書を用いた基礎的な学習が必須であり，大前提となる。基本的な知識や活用

できる方法が必要となるからである。アクティブ・ラーニング型の学習は、その基礎的な学習の「上に、先に、奥に、裏に」成り立ち、解決すべき課題・テーマとともに展開されるとより効果的なものとなると考える。

また、アクティブ・ラーニング型の学習においては、「習得⇔活用⇔探究」の各学習がスパイラル的に往還し合い、有機的に学びを駆動させることを目指したい。特に、活用・探究の学習を通して、習得・活用のプロセスで得られた既有知識や認識を見直したり、修正を加えたり、新たな課題や問いを発見したりしながら、主体的・対話的に学びを深め、さらに新たな習得・活用や高次の探究へとつなげるという深い学びの過程が展開されることを期待したい。

習得・活用型の日常の基礎的な授業と発展・応用的な内容を扱うことが多い活用・探究型の授業を、筆者はABCモデル(図2)として分類し、相互の関係の図解化(図3)を試みた。

英語科の授業におけるアクティブ・ラーニングは主として、本モデルにおけるStep B (Bring) や Step C (Cultivate) で行われる。そのStep B や Step C における協働的な課題解決学習には解決すべき課題やテーマが必要であり、学習者が自ら課題を見出すためのしかけや工夫も教師にとっては重要となる。学習者による主体的な課題発見・課題設定が可能となり、対象世界としての教材・学習材に対話的かつ協働的に迫ることができるオーセンティックなタスク・活動

| 学習ステップ       | 具体的な学習活動                    | 分類の視点                                |
|--------------|-----------------------------|--------------------------------------|
| A: Approach  | 教科書を主とした基礎習得・活用学習、演習        | 英語の「本質」に近づくための基礎学習                   |
| B: Bring     | 映画と音楽、会話を主とした「生きた英語」にふれる学習  | 英語の「本質」から何かをもたらす学習                   |
| C: Cultivate | 教科書や視聴覚教材での学習を基礎とした活用・探究型学習 | 英語の「本質」を味わいつつ、英語力の向上を目指して、学びを耕していく学習 |

図2 英語科の授業ABCモデル

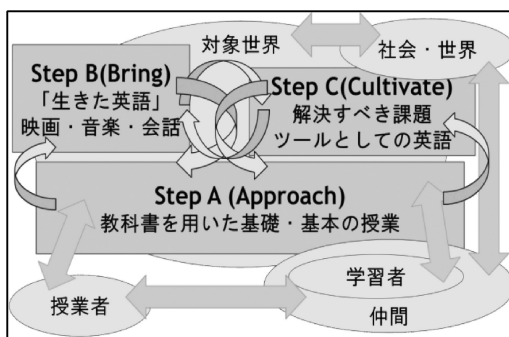


図3 ABCモデルの図解化

の設定を教師として探究したい。これらの諸要素の「吟味→精選→料理→提供」の良質なプロセスを展開する授業デザインこそが、学習者にとっての「深い学び」を創出するのであり、「ディープ・アクティブラーニング」(松下ら, 2015)へとつながることを意識しておきたい。

英語科の授業においてアクティブ・ラーニングを展開する場合に得られる教科学習固有の成果としては、英語の知識・技能の向上、英語学習への動機づけ、英語を学ぶことの必要性や意義への真なる理解等が挙げられる。また、教科学習を越えて得られる成果としては、発信における目的や対象の明確化と意識化、活動の見通しと振り返りの意義付け、自己での課題設定・課題発見や他者との役割分担等のコミュニケーションといった他場面でも活用可能な汎用的な資質・能力の育成、興味・関心と視野の広がり、教科学習相互あるいは自身の生活との関わりやつながりの実感が得られること等が挙げられる。

### 2.3. アクティブ・ラーニングの評価

アクティブ・ラーニングの評価に適する方法の一つとして、パフォーマンス評価が挙げられる。パフォーマンス評価とは、思考する必然性のある場面で生み出される学習者の振る舞いや作品(パフォーマンス)を手がかりに、概念の意味理解や知識・技能の総合的な活用力を質的に評価する方法である。

そのパフォーマンスにおいては、下の学年の生徒や本物のオーディエンスといった気が抜けない他者に対して、なれ合いを避けて、思考の表現を発表する場が持てることが期待される。

パフォーマンス課題での評価は、石井(2015)によると、実力を発揮できる場面にそのタイミングや方法を合わせることも重要であり、授業や学習に埋め込まれた、生きた文脈や実際に思考している場面での評価が望ましいという。授業や学習の中に埋め込まれることで、それは評価課題であると同時に学習課題でもあるという二重性を帯びることになり、学習課題としての性格を強調すると、作品制作過程での教師の指導、子どもたち同士の共同を重視することになるという。しかしそうすると、課題に対するパフォーマンスから個人についた力を真に評価できているという証明にはなりにくいという問題が生じる。この問題点に関しては、大学の卒業論文の評価における口頭試問のように、「作品の共同制作+個人による作品解説」、「共同での作品発表+(作品発表に対するフィードバックをふまえた)個人による改訂版の作成」といった具合に、共同作業と個人作業の両面を保障することで、評価課題と学習課題のバランスをとることができることも述べている。

教師は、評価を指導に生かすためにも、自らの評価の眼を育てるとともに、子どもたちにも評価の視点・力が育成されるように、共に努力と経験を積むことが必要であろう。

### 3. 英語科での「ノシアック (KnoThiAc)」授業実践

#### 3. 1. 「平和・人権」をテーマとした授業実践

筆者は、英語科の授業において「平和・人権」をテーマとして設定した7つの実践(図4)を行った。中学3年生を対象に、教科書からの発展的な学習として取り扱う教材やLL教室での授業で視聴した映像題材から「考える」ことにつながる教材、高校生を対象とした教材等を活用して授業を展開した。詳細は、中島(2013a)・中島(2016)を参照されたい。

教科書や発展的な読み物教材の学習においては、これまでの学習で習得してきた英語力(文法力や語彙力)を活用しつつ、理解できない部分は辞書を活用したり、推測して読んだりするトレーニングの機会となることを期待しつつ、その内容を掘り下げて深める「考える」授業を目指した。また、映像教材を活用した学習では、映像・音声として入ってくる英語表現や字幕、演者の表情や場面の状況などに、視点をもって注目し、英語の世界を味わいながら、その内容について「考える」機会となることをねらった。

以下に「ノシアック (KnoThiAc)」プロセスに沿って展開した授業実践事例を紹介する。各実践事例のねらいや概要は図5に示す。

|       |                      |
|-------|----------------------|
| 【実践Ⅰ】 | 『World Trade Center』 |
| 【実践Ⅱ】 | Anne Frank           |
| 【実践Ⅲ】 | OKINAWA              |
| 【実践Ⅳ】 | 『Freedom Writers』    |
| 【実践Ⅴ】 | We Are the World     |
| 【実践Ⅵ】 | The March to Freedom |
| 【実践Ⅶ】 | Speech & Essay       |

図4 7つの英語科授業実践

#### 【実践Ⅰ】 We Are the World

##### 【実践Ⅰ】「KnoThiAc」の学習プロセス

Know (知)：教科書等での学習から『We Are the World』が制作されるに至った経緯、背景、意図等を知識・情報として「入れる」

Think (考)：『We Are the World』の歌詞に込められた思いや制作者たちの思いを考え、グループで共有し、「広げる・深める」

Act (動)：『We Are the World』の映像制作を通して、協働的に一つのパフォーマンスを、思いをもって創り上げることを体験的に学び、完成した作品を「発する」

教科書での学習を終え、LL教室で『We Are the World』の映像を視聴した。その後、歌詞の内容や制作に至った背景も学習し、この作品がどのようなことを伝えたいのかを考えた。

さらに、第1学年次のクラスオリジナル番組制作(中島, 2011)や第2学年次の\*EPP(English Presentation Project)(中島, 2012)での学習経験を活かし、生徒主体のプロジェクト型学習として、クラス内で役割を決め、『We Are the World』の映像制作を行った。クラスが一つと



|   |      |  |          |
|---|------|--|----------|
| 【実践Ⅰ】<br>『We Are the World』                     | ねらい  | ①USA for Africaのメンバーがどのような気持ちでどのような状況を変えたかったのかを考える。<br>②USA for Africaのメンバーになりきり、クラスのメンバー一人ひとりが協力し、自分たちのクラスの『We Are the World』の映像を創り上げる。 |          |
|   | 授業計画 | 検定教科書での本文の内容学習   | 3時間      |
|   |      | 『We Are the World』DVD視聴および説明（LL教室）   | 1時間      |
|   |      | 『We Are the World』歌詞の学習、内容を考える（LL教室）   | 1時間      |
|   |      | 『We Are the World』映像制作   | 6時間      |
| 『We Are the World』完成映像試写会（卒業特別プログラム時・学年一斉）とふり回り | 1時間  |  |          |
| 【実践Ⅱ】<br>『WORLD TRADE CENTER』                   | ねらい  | 第1学年次にアメリカ同時多発テロについて学習をした。その事件に基づいて作られた作品から、この事件について考えるとともに、「平和」とは何か、人を大切にするとどのようなことかを考える。   |          |
|   | 授業計画 | アメリカ同時多発テロ事件についての復習（第1年次に概要を学習済み）  | 0.5時間    |
|   |      | 『WORLD TRADE CENTER』映像視聴および視聴ワークシート記入、意見交流   | 0.5時間×6回 |
| 【実践Ⅲ】<br>OKINAWA                                | ねらい  | 読み物『The History of OKINAWA from Past to Present』を読み、沖縄が抱える諸問題を通して、平和について考える。限られた時間の中で、グループで協力して示されたタスクの達成を目指すことを通して、各自の考えを深める。           |          |
|   | 授業計画 | 読み物『The History of OKINAWA from Past to Present』リーディングと感想  | 夏休み家庭学習  |
|   |      | 『The History of OKINAWA from Past to Present』の中から選択された読み物に関してのグループワーク①（内容を読み取り、理解し、問題点や解決策を考える。）   | 1時間      |
|   |      | 『The History of OKINAWA from Past to Present』の中から選択された読み物に関してのグループワーク②（発表のための資料を作成し、発表の準備を行う）とプレゼンテーション                                  | 1時間      |
|   |      | 本学習のふり回り   | 0.5時間    |
| 【実践Ⅳ】<br>Anne Frank                             | ねらい  | 生徒たちと同じくらいの年齢のアンネ＝フランクが置かれていた状況や歴史的背景を彼女の日記から読みとり、「平和」と「戦争」について考える。  |          |
|   | 授業計画 | 検定教科書での本文の内容学習   | 4時間      |
|   |      | 原典の英訳版教材に関する課題   | 1時間+家庭学習 |
|   |      | 課題をベースとしたグループでの「考える」活動、自分で「表現する」活動   | 1時間      |
| 【実践Ⅴ】<br>『FREEDOM WRITERS』                      | ねらい  | 人種や民族の違いや「人権」について実際にあったストーリーから学び、考える。それと同時に、人が変わるきっかけや自分の人生についても考える。   |          |
|   | 授業計画 | 『FREEDOM WRITERS』映像視聴・説明・視聴ワークシート記入、意見交流   | 0.5時間×6回 |
| 【実践Ⅵ】<br>『THE MARCH TO FREEDOM』                 | ねらい  | キング牧師が人生を捧げてきた「自由への行進」とはどのようなものだったのかを読み取る。彼の生き様や彼が成し遂げたことから「平和」「平等」「人権」について考え、われわれがどのような社会を築いていけばよいのか考える。                                |          |
|   | 授業計画 | 高校英語Ⅱ検定教科書(UNICORN ENGLISH COURSE II)「THE MARCH TO FREEDOM」本文の内容理解   | 5時間      |
|   |      | キング牧師のスピーチや人生について、意見交流   | 2時間      |
|   |      | キング牧師のスピーチ発表会  | 1時間      |
| 【実践Ⅶ】<br>Speech & Essay                         | ねらい  | 英語の授業で扱ってきた「平和・人権」というトピックについて、自分なりにふり回り、考え、英語で表現する。（スピーチとエッセイ）   |          |
|   | 授業計画 | ねらいや発表および執筆要項の説明   | 1時間      |
|   |      | 原稿の執筆  | 1時間+家庭学習 |
|   |      | スピーチ発表会  | 1時間      |
|   |      | ALTによる個別添削指導と清書  | 1時間      |

図5 7つの英語科授業実践の概要

なり、各クラスのカラーが醸し出される『We Are the World』の映像が完成した。卒業式の直前に学年全員で試写会を行い、感動的な時間を共有することができた。

生徒の多くが本活動を第2学年次のEPP活動と並び、中学校の英語科の授業で最も印象に残った学習活動の一つであると答えている。『We Are the World』を創り上げたUSA for Africaのメンバーたちが経験したであろうと推測できる活動を擬似的に体験することで、彼らの考え

方や行動，歌詞に込められた意味を少しは理解するきっかけとなったのではないだろうか。

本活動は筆者が教員研修会に講師としてお呼びいただく際によく紹介する学習活動であるが，その研修会にご参加いただいたA先生から以下のお便り（一部伏せ字，下線は筆者による）をいただいた。「完全に子どもたちの自主的な活動になっていった」というA先生のことばが示しているが，主体性を育む中学3年生の活動としては，本活動は非常に効果的であると考える。

私は昨年度1月に\*\*の\*\*中の研修会でお世話になりました。\*\*中のAと申します。今年も先生から教えていただいたことを心に留めて子どもたちに向かいたいと思います。

私は今年度20年ぶりに担任を持たず，学級担任ではない生活にロスを感じているところです。

実は今回メールさせていただいたのは，前々回の研修で見せていただいた『We Are the World』のメイキングビデオ，私も真似してやってみたという報告をしたかったからです。

3月に卒業させた自分のクラスともう一つの3年の担当クラスで「卒業制作」として1月から始めました。最初は子どもも全然乗り気ではなく，私も先が見えなくて諦めかけたのですが，途中から活動が一人歩きして，完全に子どもたちの自主的な活動になっていきました。

卒業式の2日前まで録画をし，卒業式前日は自分のクラスの方は徹夜でビデオ編集をして，プレゼントしました。（もう一つのクラスはこういうことが好きな男子生徒が同じく徹夜で編集してくれました。）

内容は大したことはないですが，私にとってもとても思い出深い活動と作品になったので，是非中島先生にご報告と感謝の言葉を伝えたいなあと感じておりました。辛いなあと思うこともやってみるものですね。

中島先生，きっとお忙しいでしょうが，今年もまた\*\*に来て下さい！また\*\*地区の\*\*先生と共に研修会の計画を立てます。



図6 『We Are the World』映像メイキングの様子



【実践Ⅱ】 WORLD TRADE CENTER

**【実践Ⅱ】「KnoThiAc」の学習プロセス**

Know (知)：映像『WORLD TRADE CENTER』の視聴を通して、出来事の背景や社会の状況等を知識・情報として「入れる」

Think (考)：映像『WORLD TRADE CENTER』の視聴を通して、人物の思いを考え、グループで共有し、「広げる・深める」

Act (動)：映像『WORLD TRADE CENTER』の視聴を通して考えたことをワークシートに書いたり他者に伝えたりすることで「発する」

2001年9月11日に勃発したアメリカ同時多発テロに基づいて制作された映画『WORLD TRADE CENTER』を数回に分けて視聴し、視聴ワークシート(図7)の設問に沿って考えを深め、仲間と共有した。生徒の感想からは、本学習以前は「平和」という状態を漠然ととらえていたが、本作品で「平和」とは決して言えない状況にふれることにより、今自分が置かれている環境を見直し、「平和」というものを捉え直す様子がうかがえた。映像視聴を重ね、他者と考えを交わし合う中で、この作品から様々なメッセージを感じとり、家族や仲間の大切さや助け合いの精神、生きる意味や価値などについて考えたようであった。このようにメッセージ性が強く、実際に起きた事件をベースに創られた作品にふれることで、考えや思いは揺さぶられ、教科の枠にとどまらない学びを得られたのは大きな成果であった。教科固有の学びとしては、映画作品の活用により、生の英語にふれることができ、学習動機付けを高めることに貢献した。

The worksheet is titled "WORLD TRADE CENTER(5) Chapter 5" and is for "9th graders of Junior High School attached to Ochanomizu University". It contains two main sections of handwritten Japanese text. The first section discusses the movie's perspective on the 9/11 attacks, mentioning the characters' feelings and the impact on the world. The second section is a reflection on the concept of "peace" (平和), stating that the movie shows that peace is not always present and that people must learn to live with uncertainty. At the bottom, there is a date field filled with "Wednesday, November 21st" and a weather field filled with "Sunny". A small image of the movie poster for "WORLD TRADE CENTER" is also visible.

図7 『WORLD TRADE CENTER』ワークシート

## 【実践Ⅲ】 OKINAWA

## 【実践Ⅲ】 「KnoThiAc」 の学習プロセス

Know (知) : 読み物教材をジグソーで読み、問題点等も含めて関連事項・背景等を各自調べてくることで自分の中に知識・情報として「入れる」

Think (考) : 各自が調べたり考えたりしてきたことをグループで共有し、さらに問題点、その原因や理由、根拠等や、その解決の方向や策も考え、主張・提案としてまとめていくことで本課題への理解を「広げる・深める」

Act (動) : 各グループの話し合いの内容を、発信の目的と対象を意識して、視覚資料を提示しながら「発する」

高校生対象のサイドリーダーテキスト『The History of OKINAWA from Past to Present』(中村, 2011)(図8)を夏季休業中の課題とし、一通り個人での学習を行った後、数か月後にグループでのパフォーマンステストという形で再度学習を深めた(図9)。

本授業には50分×2コマの計100



図8 本実践で用いた教材



図9 パフォーマンステストでのグループ活動の様子

分を配当した。前半では、同テキストのチャプターの中から教師によって選択された読み物1つが課題として予告なく与えられ、制限された時間内でその課題の内容を読み取り、理解し、問題点や解決策を考えると学習をグループで展開した。後半では、発表のための視覚資料を思考発想ツールや図解化を用いて作成し、発表の準備を行い、最後にプレゼンテーションを英語で実施した。従前の個人型の実技テストとは異なり、グループでの協働的課題解決型のパフォーマンステストとして実施した。生徒は時間を意識し、役割分担を確実にを行い、各自がその役割を果たすべく真剣に取り組んでおり、充実した学習となった。この一連の学習プロセスは総合的な学習の時間等でも活用でき、教科を越える資質・能力の育成にもつながるものであると実感した。

評価は、グループおよび個人のパフォーマンスの活動中・発表時の観察と録画映像の見直し、ワークシートへの取り組み状況を2名の教師（筆者とTTの教員）によって合意形成の過程を経て行った。その過程は複雑であり、時間と労力を要するものとなったが、教師の協働性を高め、評価の視点を創り上げていくよい経験となった。

なお、本実践については浅野・芹澤（2021）の中島執筆部分も参照されたい。

#### 【実践Ⅳ】 Anne Frank

##### 【実践Ⅳ】「KnoThiAc」の学習プロセス

Know（知）：アンネの日記の英語版ペーパーバックの教科書対応ページを各自が家庭学習として読み、問題点等も含めて関連事項・背景等を各自調べてくることで自分の中に知識・情報として「入れる」

Think（考）：各自が調べたり考えたりしてきたことをグループで共有し、さらにテーマに対する意見を他者と共有・交流することで「広げる・深める」

Act（動）：各グループでの話し合いを参考にしつつ、自らの意見を再構成・再構築して、英語で「発する」

教科書での学習後、原典の英語翻訳『THE DIARY OF A YOUNG GIRL』（Anne Frank, 1993）から教科書で学習した内容・範囲と関連する部分（図10）を読み深める学習を展開した。個人課題ではワークシートを用いて日記を読み深め、授業では、自分の考えを記したメモを用いて、グループでの意見交流や討論を行った。そして、さらに自分の考えを深め、英語で表現し、発表する活動を行った（図11）。

同じ教材に対しても、生徒によって考え方や感じ方、捉え方は実に様々であり、それらを共有し合う過程では、多くの新たな学びが起る。異なる考え方や感じ方は議論を生じさせ、ここでは自分の考えを整理しながら相手に伝える力が必要となる。本学習活動は、実際の体験を



図10 『アンネの日記』



図11 意見交流の様子

通してその力を育てるとともに、異なる意見との接触から思考の変容や深化を実感する経験を得る機会となった。また、異なる意見を受容する力や批判する力等の多様な力の育成の可能性をもつ有益な学習活動になったと言える。

## 【実践V】FREEDOM WRITERS

### 【実践V】「KnoThiAc」の学習プロセス

Know (知)：映像『FREEDOM WRITERS』の視聴を通して、そこに描かれた社会やそこで起こる出来事、およびその背景等を知識・情報として「入れる」

Think (考)：映像『FREEDOM WRITERS』の視聴を通して人物の思いを考え、グループで共有し、「広げる・深める」

Act (動)：映像『FREEDOM WRITERS』の視聴を通して考えたことを、ワークシートに書いたり、他者に伝えたりすることで「発する」

『FREEDOM WRITERS』（エリン・グルーウェルとフリーダム・ライターズ著、田中奈津子訳、2007）を原作とした映画『FREEDOM WRITERS』（2007）を視聴し、視聴ワークシート（図12）の設問に沿って考えを深めた。

生徒の多くは、本作品のテーマを「人種差別」だと捉え、人種差別の壁をどのように取り除いていったかの過程を学んだようであった。そして、人種や民族の壁が取り壊され、そこから新たに生まれる信頼関係や仲間意識、絆の尊さ、一人ひとりが個を受け入れ、認め合い、尊重し合うことの重要性、平等で平和な世界などについて考えたようである。また、本作品には、『アンネの日記』やキング牧師に関する場面が登場するのだが、これらの場面を既習事項とつな



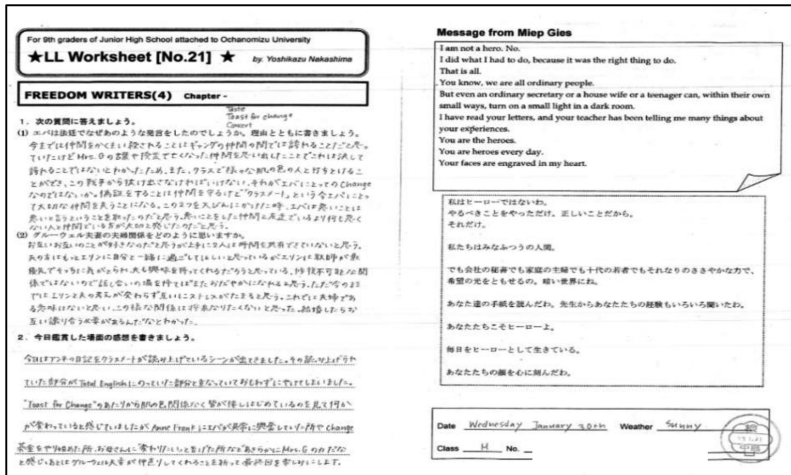


図12 『FREEDOM WRITERS』 ワークシート

げ、関連性や共通性を見出し、考えようとする生徒も見られた。

【実践Ⅵ】 THE MARCH TO FREEDOM

【実践Ⅵ】 「KnoThiAc」の学習プロセス

- Know (知)：読み物「THE MARCH TO FREEDOM」を学習し、キング牧師の人生やその生き様等について知識・情報として「入れる」
- Think (考)：読み物「THE MARCH TO FREEDOM」を学習し、人々の思いや平和・人権について考え、グループで共有し、「広げる・深める」
- Act (動)：読み物「THE MARCH TO FREEDOM」を学習して考えたことをスピーチやエッセイで伝えることで「発する」

本学習では、高等学校の外国語科検定済教科書『UNICORN ENGLISH COURSE II』（末永・山田ほか、1994）掲載の「THE MARCH TO FREEDOM」（図13）を教材として、キング牧師の人生やその生き様を学習した。本文中に出てくるキング牧師のスピーチの一部を学習するとともに、映像で実際の演説の様子も視聴した。また、キング牧師のスピーチの一部を活用した暗唱発表会も実施した。

本教材の学習に関しては、LL教室での授業で視聴した『FREEDOM WRITERS』と関連づけながら授業を実践した。また、両方のタイトルに共通することばである“FREEDOM”「自由」の意味についても生徒に問い、考えさせる授業を展開した。

For 9th graders of Junior High School attached to Ochanomizu University  
**English Worksheet [No.68]** by Yoshitaka Nakahama

**THE MARCH TO FREEDOM [3-2]**

① King began to speak. ② He spoke for the marchers. ③ His voice rang out and

sent the marchers' message across the huge area between the Lincoln Memorial and the Washington Monument.

④ "I have a dream," he cried.

⑤ The crowd roared, "Sell out!"

⑥ "I have a dream—that the sons of former slaves and the sons of former slave owners will be able to sit together at the table of brotherhood."

⑦ "Yes! Yes! I see it!" roared the crowd.

⑧ "I have a dream that my four little children will one day live in a nation where they will not be judged by the color of their skin but by the content of their character."

⑨ "Oh, yes! Dream or Dream?" cried the crowd.

⑩ When King finished the speech, every man and woman stood up with tears in their eyes. ⑪ The important Northern newspapers and magazines printed the speech.

⑫ And it was carried by radio and movies to millions more in America, Africa, Asia and

Europe.

⑬ It is a tragedy that Martin Luther King, Jr., friend of all men and winner of the Nobel Peace Prize, was killed on April 4, 1968. ⑭ It is

continue and finish Dr. King's March to Freedom.

⑯ speak for ~ : [ ] ]  
 ⑰ ring out : [ ] ]  
 ⑱ not like ~ : [ ] ]  
 ⑲ with tears in their eyes : [ ] ]  
 ⑳ up to ~ : [ ] ]

**Questions**

(Q1) King said "I have a dream. ..." In the text, there are two dreams of his. Japanese.

(Q2) What is a "tragedy"?

(Q3) What is other's duty?

Date \_\_\_\_\_ Weather \_\_\_\_\_  
 Class \_\_\_\_\_ No \_\_\_\_\_ Name \_\_\_\_\_

**THE MARCH TO FREEDOM**

**INTRODUCTION**

Martin Luther King, Jr. was born to a black minister and his wife in Atlanta, Georgia, in 1929. More than sixty years had passed since Lincoln set the slaves free, but black people were still very unhappy, especially in the South. They were not allowed to enter some theaters or restaurants. They were not even allowed to sit by white people on buses. They were paid only half as much money as whites. And they were often fired from their jobs for no good reason. So there was much complaining among blacks about such unfair treatment. A quarter of a century later, Martin Luther King, Jr. had grown up to be a minister of the Baptist church. And yet things had not changed for blacks.

Montgomery, Alabama, 1954. was a picture of the poorest social conditions under which blacks had to live. As in most Southern cities, bus passengers seated themselves on a first-come, first-served basis. Black passengers took seats on the bus from the rear forward, white passengers from the front toward the rear. Besides, in Montgomery, the first four seats were reserved only for the use of whites. Also, when the bus was full, the driver could order blacks near the front to yield their seats to whites.

Martin Luther King, Jr. came to the Dexter Avenue Baptist Church in this city in September, 1954. Although he hated social injustice, he did not join a protest group. He thought his first duty was to work for the church. Every day, after an hour of reading in the morning, he did his duties of marrying, burying, and visiting the sick.

Into this quiet life came a day in December, 1955. That day, the police arrested Rosa Parks, a black woman, for breaking the city's segregation laws. She would not give her seat to a white passenger on the bus. Rosa Parks' arrest united all the blacks in the city. They decided to join in a one-day bus boycott. That morning, blacks walked, rode horses, and drove wagons. It was an almost complete boycott.

At 3:00 P.M. King and other leaders met to plan a program for continuing the boycott. The Montgomery Improvement Association was formed, and King was elected president. He went home to prepare a speech for the big meeting which was to be held at 7:00 P.M. at the Holt Street Baptist Church.

When King arrived at the meeting, the church was full, and three thousand people were standing outside. This huge crowd decided to boycott the buses until their demands

図13 「THE MARCH TO FREEDOM」教材

## 【実践Ⅶ】 Speech &amp; Essay

## 【実践Ⅶ】「KnoThiAc」の学習プロセス

Know (知)：これまでの「平和・人権」をテーマとした学習を，ポートフォリオを活用して振り返りつつ，知識・情報として「入れる」

Think (考)：これまでの「平和・人権」をテーマとした学習を振り返り，平和や人権について自分で考えを創り，それをグループで共有し，「広げる・深める」

Act (動)：これまでの「平和・人権」をテーマとした学習を振り返り，考えたことをスピーチやエッセイで伝えることで「発する」

英語の授業で扱ってきた「平和・人権」というテーマで，自己の学習を振り返り，考え，英語で表現する。話す活動としてスピーチ発表を，書く活動としてエッセイ執筆を行った。その条件としては，1年間で学習してきたトピックのうち最低一つについてふれることを提示した。その過程では，ALT 教員による個別指導の機会を設け，その中で発音指導や添削指導を実施した。最終的に，エッセイは文集として製本し卒業時に配布した（図14）。英語科としての「平和・人権」をテーマとした1年間の学習のエッセンスが詰まった成果物が完成した。

## 3. 2. 英語科授業実践の結果と考察

全学習終了後，生徒に実施した「平和・人権」の学習を通して身についたと思うものを問う調査では，図15の結果が得られた。



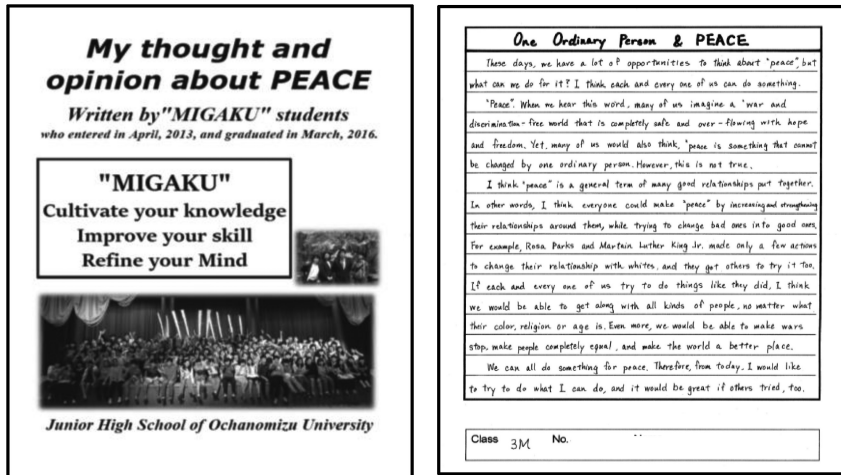


図14 「平和・人権」をテーマとした英語文集

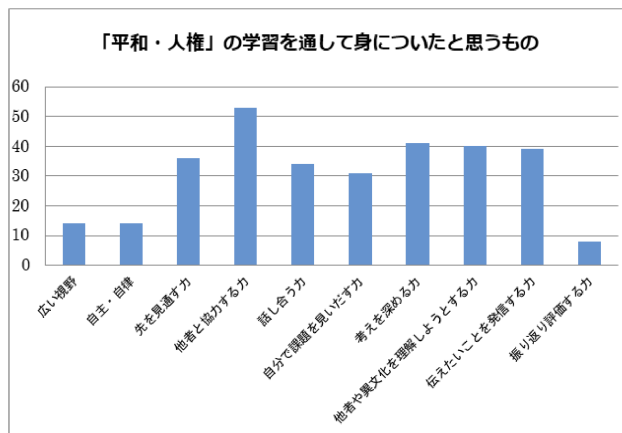


図15 「平和・人権」の学習を通して身についたと思うもの

個人として身についたと感じている力としては、「他者と協力する力」が圧倒的に多くなっている。グループ中心の協働的な学習がメインであったこともあり、このことが対話的な学びの創出やコミュニケーション能力の育成に貢献したと考えられる。「考えを深める力」が次に多い結果は、全実践において「ノシアック (KnoThiAc)」プロセスでの「考える」学習に力を入れたことに起因すると推察される。この結果からは、深い学びの創出や思考力・判断力の育成につながった可能性が示唆される。「他文化や異文化を理解しようとする力」では、コミュニケーション能力や他者意識・理解の促進が、「伝えたいことを発信する力」では、主体的な学びの創出や表現力の育成への貢献の可能性がそれぞれ考えられる。

他方、身につけていないと感じているもの、つまり課題としてとらえるべき力として、「振り返り評価する力」が挙げられている。この結果から、自己省察力や自己・他者評価力を高めるための省察や評価の視点の提示・理解、実践の学習の不足が示唆される。改善の手立てとしてのポートフォリオの活用やルーブリック・CANDO リスト等の生徒と教師が共通理解をもち共有していくべき指標の提示や実践的活用の必要性を改めて認識した。

本稿のテーマと関連する3年間の英語科授業の振り返り（自由記述）を以下に紹介する。

（下線は筆者による。）

1年生から3年生までの3年間の間、今までやったことのないことをたくさんやってきたなと感じました。大きな行事のようなものから、毎週LL教室で映画を観て聞き取りをしたりするのは本当に楽しく、英語をより身近に感じるようになりました。また、マザーテレサやアンネフランク、キング牧師など、歴史上の人物についても学ぶことができました。日本語ではなく英語で内容が理解できるか不安もありましたが、新鮮な感じがしてどんどん読み進めていくことができました。あつという間の3年間でしたが、その間に英語を楽しんで学習してきて、もっと色々なことを知りたいと思えました。

私は英語は得意ではありませんが、大好きです。たしかに授業スピードは速かったです。でも、その分LLの授業で、音楽を聴いて、映画を観て、ただ英語の書き言葉だけでなく話し言葉のようなことも学ぶことができました。また、9・11やタイタニック、FREEDOM WRITERSなど、本当に起こったことについて同時に学ぶことができました。普通の英語の授業だけではなく、LLの授業では大切なことを得ることができたと思っています。普段の授業では授業のスピードが速い分集中して取り組みました。アクティビティなど、ただ座って学ぶだけでなく、実際に使ってみたり、教科書の延長でアンネフランクについてやったり、EPPやWe Are the WorldのPVを作ったりなど、楽しかったです。物を覚えたり、授業を受ける上で、楽しく取り組むのはとても大切なことだと思います。だから、3年間苦もなく授業を受けることができて、元々好きだった英語が大好きになって、得意になりたい、もっと学びたいと思えました。また、もっと海外について知りたいと思うようにもなりました。そういう意味で、中学校3年間の英語の授業はとても大切な授業だったと思います。これから先、英語を得意にできるように努力をしていきたいと思っています。

英語の授業は、EPPや“We Are the World”のPV作り等、習得したものを発表するという内容が多く、非常に楽しかったです。英語の授業を通して、当時の歴史について深く学んだり、それらについて自分の意見を述べ合ったりすることで、自分の考えだけでなく、他の人達は、どのように思っているのかについて、詳しく知ること、様々な視点から学ぶ能力も学ぶことができました。3年間、様々なことを教えて頂き、本当にありがとうございました。

英語の授業は中学校に来て初めて習う教科でした。また、私は中学校に入学する前に習っていたのもあり、中学校での英語の授業をやっているかどうかをとっても心配していました。しかし、授業を受けてみると・・・いままで抱いていた不安は消え去ってしまうほどとても楽しい授業に出会えて、いまに至ります。英語の授業はわたしにとって、単に楽しいというものだけではなく、あらゆる知識を学び、あらゆる視点から、方向から物事を見るということを学ぶことができた教科でもあります。特にLLの授業で観た映画においてですが、映画に出てくる人たちは全員“何か”を持っています。大切なものであったり、強く自分の中に抱えている信念だったり、私には持っていないものです。だからこそ、この3年間の英語の授業で見つけられた気がします。

これらの記述から、教科書学習の範囲内にとどまらず、テーマ性のある学習を継続的に積み重ねる経験は学習者にとって大きな財産となったことがわかる。また、多様な方法で他者と関わり合いながら協働的に進める学習経験を通して、学ぶことそのものの意義を見出すことができた者もいたようである。教科のみにとどまらない学びを提供することができた点は意義深い。

### 3. 3. 実践のまとめと課題

前述した7つの実践の一つ一つはそれぞれが独立した教材である。しかし、それらの点と点が1本の線で結ばれていくにつれて、生徒の意識は変わっていった。一つのテーマに、様々な方向から、様々な方法でアプローチしていくことで、より多角的・多面的な見方・考え方を養うことが可能になる。その見方・考え方は、英語科のみならず、総合的な学習や道徳、特別活動でも活用できる汎用的なものになりうる。

本実践では、カリキュラム構想の土台にある、教師が伝えたいことや生徒に考えてほしいことを「平和・人権」というテーマ性のある学習を通して実現させ、教師・生徒共に考えを深めることにつながったことを示してきた。この点において、生徒が「考える」ことを促進させるテーマや教材を設定・提示することは極めて重要であり、教科書で扱われている題材に加え、映像教材や一人では難しいが仲間と協働して取り組みたいような教材を活用することにより、生徒の可能性あふれる資質・能力を多様に育成していくことが可能であると考えられる。

また、生徒が主体となる活動を絡めた「考える」授業の可能性として、『We Are the World』の映像制作活動から、教員主導型の授業とは比較できないほどの教育的効果および意義を感じた。これは前年度（第2学年次）に実施したEPP活動でも見出せた姿であるが、やはり生徒は仲間と考えつつ、何かを創り上げていくという対話的・協働的過程において、自らの学びを活用することを通して、学習へのやりがいや意義、達成感などを見出していく。『We Are the World』の活動では、その作品に込められた願いやメッセージについても考えた。そのメンバー

が協力して創り上げた作品を自分たちの力で創り上げるという擬似体験の過程では、各役割を演じるために自分の担当歌詞を覚えて歌えるようにし、本人に近づけるための研究をする。クラスとして一つのを創り上げる過程では、他者とのコミュニケーションは不可欠である。相互にパフォーマンスを指摘し合い、切磋琢磨し、よりよい作品を創ろうとする空気がそこにはあった。この空気の中では英語の得意・苦手は関係なく、真剣な顔と笑顔があふれていた。これこそが「学校ならではの」「いま—ここ」の授業であり、記憶に残る意義深い体験となるのである。

中学校3年間での英語学習における、個人また学年の発達段階の実態やニーズを捉えたテーマ設定や教材選択を適切に行うことが、教師には求められる。また、英語科の授業で教師が陥りがちな「表現する」学習活動だけに重きを置くのではなく、「ノシアック (KnoThiAc)」が示す「知る (Know)」「考える (Think)」そして、表現する学習活動を含む「動く (Act)」のバランスのとれたカリキュラム・授業を構想・実践していくことが重要である。

#### 4. 総合的な学習の時間・特別活動等での実践

筆者が勤務していた中学校では、2014年度から2019年度まで文部科学省開発研究として新設した教科「コミュニケーション・デザイン科」(お茶の水女子大学附属中学校, 2021) のカリキュラム開発を行っていた。教員は本教科開発研究と担当教科を関連づけて様々な実践に取り組んだ。教科等横断的で汎用的に活用できる資質・能力の育成を目指し、基礎的なコミュニケーションや議論の深め方から、効果的なものの伝え方、思考発想ツールや図解化等の活用に至る授業を展開した。筆者はその新教科の授業づくり実践の中で、英語科のみならず総合的な学習の時間、委員会活動や学校行事等の特別活動、道徳等でも「ノシアック (KnoThiAc)」のプロセスを生徒に示し、実践してきた。

##### 4. 1. 総合的な学習の時間での実践

###### (1) カリキュラムの全体像

前述「コミュニケーション・デザイン科」は、総合的な学習の時間の性質を帯びており、あるテーマについて思考発想ツールや図解化を用いて、アプローチする学習も実践された。筆者は社会科教員と協働し、「平和のためにできること」というテーマで全7時のカリキュラム(図16)を構想・実践した。詳細は、中島・寺本(2022)、寺本・中島(2022)を参照されたい。

###### (2) 英語科の視点からの「ノシアック (KnoThiAc)」実践

本カリキュラムの第5・6時は、英語科の視点から『『平和』のための行動政策を創り出し、

第1時 様々な「平和」を見出す  
○「平和」のイメージマップを作成する。  
第2時 身近な「平和」を考える  
○「調停」を学び、模擬調停を体験する。  
第3時 テーマについて広い視点で考える  
○「平和」につながる行動について考える。  
○「10 things you can do for peace」を知る。  
第4時 「平和」のためにできることを探る  
○与えられた新聞から記事を選択し、その内容を、思考ツールを活用し図解化する。また、記事から問題点や課題を見出す。  
第5時 「平和」への行動政策を創り出す  
○課題解決のための行動企画案を考え、それを事象や問題点、解決の方向性ととも提案するための図解化資料も作成する。  
第6時 「平和」への行動政策を表明する  
○これまでの学習を振り返り、グループで考えた政策を発信するための資料を作成する。  
○グループで考えた行動政策企画案を、作成した資料を用いて発表し、評価し合う。  
第7時 「平和」への行動政策を振り返る  
○行動政策企画案の作成過程を振り返り、評価するとともに、次のステップに向けての新たな視点を見出し、考える。

図16 「平和のためにできること」カリキュラム

**10 things you can do for peace** 『軍縮のためのアクション：あなたにもできる10のこと』 国際連合広報センター  
1) Stay informed 情報収集を絶やさないようにしよう  
2) Start a club クラブをつくらう  
3) Create an event イベントを開催しよう  
4) Sign up 署名しよう  
5) Facilitate a discussion 話し合いを司会進行しよう  
6) Express ourselves 考えを発信しよう  
7) Host a film screening 上映会を開こう  
8) Voice your concern 意見を訴えよう  
9) Plan a presentation プレゼンテーションをしよう  
10) Reach out 輪を広げよう

図17 10 things you can do for peace

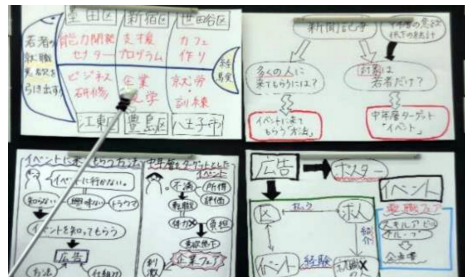


図18 図解化・思考ツールを活用した資料

表明しよう！」という授業を実践した。本時では、自分たちで作成した「平和」のイメージマップや「10 things you can do for peace」(図17)を振り返り、思考ツールを活用して、グループで考えた行動政策を発信するための図解化資料(図18)を作成した。そして、その資料を用いて、考えた行動政策企画案をグループごとに発表し、評価し合った。

第5・6時の学習活動を「ノシアック(KnoThiAc)」のプロセスで以下のように整理した。このうち、ThinkとActのプロセスが本時に該当する。



| プロセス  | 学習活動   | 準備するもの                  | 配当時間 |
|-------|--|-------------------------|------|
| Know  | ○「平和」とは何かという問いについて、自らの考えをつくり、他者と交流する活動を通して、その考えを深め、自分の中に一つの「知」として獲得する。<br>○「調停」体験学習や調査学習を通して、必要な知識を獲得する。 | 学習ポートフォリオ（ワークシート等）      | 4時間  |
| Think | ○課題解決のための行動企画案を考え、それを事象や問題点、解決の方向性ととともに提案するための図解化資料も作成する。  | 学習ポートフォリオ、図解化資料         | 1時間  |
| Act   | ○これまでの学習を振り返り、グループで考えた政策を発信するための資料を作成する。<br>○グループで考えた行動政策企画案を、作成した資料を用いて発表し、評価し合う。                       | 発表図解化資料、ワークシート、（ICT 機器） | 1時間  |

### (3) カリキュラム・マネジメントの視点

本カリキュラムは、生徒自らが課題発見・設定から解決に向けて、協働的に活動を創出する地盤づくりの過程である。後に展開する、社会とつながるプロジェクト活動を行う際に活用できる知識・技能、方法等を体験的に学ぶ目的も有している。俯瞰的視座をもち、教科等の枠にとらわれず、よりよい社会の実現への貢献を目指す協働的な課題解決活動の予行演習的な位置付けでもある。社会とつながることで、学校外からの価値付け・意味付けが得られ、生徒の動機付けは高められる。見通しと振り返り、習得・活用・探究を「ノシアック（KnoThiAc）」のプロセスを通して生徒が主体的に体得できる。これらが、本実践のカリキュラム・マネジメントの最大のポイントであると考えられる。

## 4. 2. 特別活動における実践

学校の教育課程を構成する一つとしての特別活動について、中学校学習指導要領（文部科学省、2017）によると、学級活動、生徒会活動、学校行事等の全体を通して、自治的能力や主権者として積極的に社会貢献する力を育てることを重視し、学級や学校の課題を見だし、よりよく解決するため話し合っ合意形成すること、主体的に組織をつくり役割分担して協力し合うことの重要性が明確にされている。

特別活動の目標としては、中学校学習指導要領（同上）では、「集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決する」ことを通して、資質・能力を育成することが示されており、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点でその資質・能力における重要な要素が整理されている。これを達成すべく、特別活動を構成する学級活動・生徒会活動・



学校行事準備において、「ノシアック (KnoThiAc)」プロセスの活用を意識した活動を展開した。

### (1) 学級活動

筆者の学級経営方針の一つに、自分たちでクラスを創るという自主性・自治性を重視するものがあった。これを実現するための一つの手立てとしてリーダーの育成があった。リーダーを中心に、自分たちでの話し合い活動やコミュニケーション活動を積極的に行うようにした。

ここでは、学級の「お楽しみ会」の企画を以下に例として挙げる。

| プロセス  | 学習活動  | 準備物   | 配当時間  |
|-------|---|-------|-------|
| Know  | ○学級の構成員それぞれがお楽しみ会でやりたいことを考え、それを交流し合い、互いにクラスメイトの実態とニーズを知る。 | メモ    | 0.5時間 |
| Think | ○お楽しみ会の企画のアイデアを出し合い、話し合う。<br>○プログラムと役割を決定する。              | メモ    | 0.5時間 |
| Act   | ○役割ごとに準備を進め、お楽しみ会を運営する。                                   | 必要なもの | 1時間   |

### (2) 生徒会活動

筆者の生徒会評議会議長団顧問担当時の実践を示す。評議会議長団は毎年5月に行われる生徒総会の一切を任されている。元勤務校では、部活動や委員会、行事の年間計画や予算作成・処理等全て生徒に任されていた。生徒総会は1年間のあらゆる生徒会活動を始めるための重要な位置付けである。生徒総会での承認後、体育祭や文化祭等の行事の実施が許可され、実行委員会が発足したり、部活動の予算の使用が可能となったりする。そのような重要な行事を担う議長団4名に示したプロセスも、この「ノシアック (KnoThiAc)」に則っていた。

| プロセス  | 学習活動   | 準備物              | 配当時間 |
|-------|--|------------------|------|
| Know  | ○前年の資料や映像を見て、イメージを確かなものにする。  | 前年度の資料・生徒総会映像    | 1時間  |
| Think | ○前年度の反省点や不備等を出し合い、本年度どのように改善すべきか議論する。<br>○議論した点を踏まえて、本年度の計画を練り、準備を進める。 | 各自のメモ等           | 10時間 |
| Act   | ○生徒総会を運営し、事後に省察と次年度への申し送り事項を作成する。                                      | 振り返り・次年度への申し送り事項 | 1時間  |

### (3) 学校行事

元勤務校では、校外学習の際に各学級2名ずつ、学年合計8名から構成される総務と呼ばれる実行委員を組織した。第1学年では横浜校外学習(中島・佐藤, 2011)、第2学年では志賀高原林間学校(中島・佐藤, 2012)、第3学年では岩手修学旅行(中島, 2013b)をその総務が中心となり、「自主自律」「広い視野」の学校教育目標のもと、行事企画や運営を進めた。

特別活動(校外学習行事・学級活動)を総合的な学習の時間や道徳と融合させ、有機的に結びつけたカリキュラムを編成し、「ノシアック (KnoThiAc)」を意識した指導を実践した。

| プロセス  | 学習活動   | 準備物              | 配当時間           |
|-------|--|------------------|----------------|
| Know  | ○行事の見通しを、資料を見て知る。<br>○行事を動かすうえで、必要なことへのイメージを持つ。  | 資料（ワークシート、スライド）  | 2時間            |
| Think | ○行程や持ち物、ルール等について、学級会や総務会の往還を通して意見を交流・議論し、確定していく。 | ワークシート、各自のメモ等    | 10時間程度         |
| Act   | ○行事を運営する。<br>○事後に振り返りを行う。                        | ワークシート、しおり、振り返り等 | 1日～4日<br>+振り返り |

## 5. お わ り に

### 5. 1. 教育的意義

本稿では、「ノシアック (KnoThiAc)」プロセスを意識することの有用性を実践例とともに、示した。本プロセスで課題にアプローチすることで、学習過程のパターン化がなされ、学習活動の効率が高まり、取り組みやすくなる。見通しも持ちやすくなり、時間管理への意識が高まったり、役割が分担しやすかったりするという利点もある。協働的な課題解決の道筋としての土台が固まる点において、第一の意義がある。

また、パターン化されたプロセスを意識させることで、一つ一つの活動が次の活動に必要なものであることを示すことにもつながる。次の活動を充実したものにするためには、今の活動を確実にこなすことが必要条件となる。そのため、各プロセスでの学習活動に丁寧に取り組むことが、最終的な成功へのカギとなると実感することができる。同時に、なぜそのステップが大切であるのかを考える機会ともなる。「知る」ことはなぜ必要なのか、「考える」ことで何が生まれるのか、どのように「動く」ことが効果を生むのかなどの「問い」に向き合う学習者を育成するという点において、第二の意義がある。

さらに、この方法を1つの教科に閉じることなく、多様な教科等や学習・生活場面でも活用していくことで、そこで相互に培われ育てられる資質・能力が教科等横断的な相互往還的なものに変わっていくメリットもある。英語科での「平和・人権」というテーマ性のある課題の学習経験において、「知る」ことになった知識・情報・背景等、「考える」学習において他者との意見交流によって得られた思考の変容や深化の経験、「動く」活動として発表ややり取りをしたり、エッセイを書いたりした発信の経験、そしてこのプロセスを意識して展開された学習活動での経験、これらの一つ一つが学習者の学習動機を高めたり、学習指導要領で示されている「主体的・対話的で深い学び」を創出したりするアクティブ・ラーニングの一つの形を提供する点において、第三の意義があると考えられる。

これらの意義をもつ学習活動のプロセスとしての「ノシアック (KnoThiAc)」は、学習者の主体的な学びの開拓・創出を助け、他者との協働による学習経験・既有知識・思考の交流体験

を通して、自律的な学習者としてのベースを確立し、思考力・判断力・表現力を研ぎ澄ますことにも貢献するであろう。また、本プロセスでの活動を重ねるにつれて、他者理解・尊重の高まり、視点の広がりも感じられるようになるであろう。教科等の枠を越えて、このような姿がますます実現されるよう、学習者の学習経験や学習履歴、学力等も含めた実態とニーズをつぶさに捉え、その成長につながる絶妙なハードルとなりうる課題やテーマを設定し、その学習意欲や達成感、協働性、自発性を高め、次なる学習への動機の向上につなげることが、教師には求められるだろう。あわせて、それらを可能とする鑑識眼が要求されるが、その鑑識眼に基づいて設定された適切な課題が生徒の興味関心・学力等の実態と見事にマッチしたときには、生徒を熱中させる世界へと誘うことを可能にすることだろう。

## 5. 2. 今後の研究での課題

今後の課題として、学習者がより興味・関心を持てる、自分たちにとって身近なトピックで、取り組むことに意義を見出し、達成感の持てるものを探り、それを英語という教科の視点から、また、アクティブ・ラーニングの可能性を模索しつつ、より多様な教材を開発していくことが挙げられる。そして、学習者が英語という教科の本質を享受できる、すなわち「真正の学習 (authentic learning)」・「教科する (do a subject)」学習 (石井, 2015) を導出するプログラムを開発していかなければならない。

本稿では、主として中学生を対象とした実践を報告した。今後は、「ノシアック (KnoThiAc)」プロセスをベースとした、大学におけるカリキュラム開発を考えている。筆者が担当する語学としての英語、キャリア教育、教職、地域連携という多様な科目を貫く、汎用的な資質・能力の育成をねらう授業カリキュラムの構想を目指す。授業実践・評価・改善のプロセスを積み重ね、本プロセスモデルの精緻化を探究する。また、より多様な「真正性」のあるテーマおよび魅力ある素材の教材化・授業化を試み、大学のみならず小学校から高等学校の教科や総合的な学習／探究の時間、特別活動に通ずるカリキュラムを検討したい。

(注)\*EPP (English Presentation Project) : 第2学年次第3学期にプロジェクトリーダーの企画・運営により、生徒主体で創り上げた英語活動。各クラスのプロジェクトリーダーが授業案を作成し、授業を進めた。英語劇・英語学年課題曲・英語学級自由曲・英語詩群読を扱い、学年最終授業日に2時間で発表会を実施した。

## 参 考 文 献

石井英真 (2015) 『今求められる学力と学びとは—コンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影—』日本標準

- 石井英真 (2016) 「カリキュラム・マネジメントで求められる評価のあり方」『教育展望 (2016年4月号)』 pp. 23-28 教育調査研究所
- エリン・グルーウェルとフリーダム・ライターズ, 訳=田中奈津子 (2007) 『フリーダム・ライターズ』講談社
- お茶の水女子大学附属中学校編 池田全之, 加賀美常美代, 中島義和ほか31名 (2020) 『コミュニケーション・デザインの学びをひらく—教科横断で育てる協働的課題解決の力』 pp. 72-77 明石書店
- 末永國明・山田泰司ほか (1994) 文部省検定済教科書 高等学校外国語用 (英語Ⅱ) 『UNICORN ENGLISH COURSE II』 pp. 77-88 文英堂
- 寺本誠・中島義和 (2022) 「協働的な課題解決の力を培う教科等横断的なカリキュラムの開発—社会科の視点から—」『日本教科教育学会第48回全国大会論文集』 pp. 179-180
- 中島義和 (2011) 「表現の工夫を意識させる授業づくり—『表現する力』の育成を目指して」『お茶の水女子大学附属中学校研究紀要・第40集』 pp. 55-76
- 中島義和・佐藤吉高 (2011) 「第1学年 横浜校外学習実践報告」『お茶の水女子大学附属中学校 研究紀要・第40集』 pp. 93-112
- 中島義和 (2012) 「表現する力の育成と学校教育目標を意識した活動—生徒たちが自ら創り上げる英語発表活動を通して—」『お茶の水女子大学附属中学校紀要・第41集』 pp. 73-100
- 中島義和・佐藤吉高 (2012) 「第2学年総合カリキュラム 第2学年志賀高原林間学校」『お茶の水女子大学附属中学校 研究紀要・第41集』 pp. 135-156
- 中島義和 (2013a) 「『考える』英語の授業を創る—『平和・人権』をテーマとして」『お茶の水女子大学附属中学校研究紀要・第42集』 pp. 55-65
- 中島義和 (2013b) 「第3学年総合カリキュラム 第3学年修学旅行」『お茶の水女子大学附属中学校 研究紀要・第42集』 pp. 155-161
- 中島義和 (2016) 「中学校英語科の授業において学習者の意欲・能力の向上を図る協働的課題解決学習およびアクティブ・ラーニングの実践研究—『平和・人権』をテーマとして—」『平成28年度 公益財団法人文教協会研究助成 報告書』
- 中島義和 (2021) 「ノシアックプロセスで学びを深めよう!」, 浅野雄大・芹澤和彦編著『中学校・高等学校4技能5領域の英語言語活動アイデア』 pp. 50-51, 70-71, 102-103 明治図書
- 中島義和・寺本誠 (2022) 「協働的な課題解決の力を培う教科等横断的なカリキュラムの開発—英語科の視点から—」『日本教科教育学会第48回全国大会論文集』 pp. 177-178
- 中村隆 (2011) 『The History of OKINAWA from past to Present』 エミル出版
- 松下佳代・京都大学高等教育研究開発推進センター (2015) 『ディープ・アクティブラーニング』勁草書房
- 文部科学省 (2017) 「小学校学習指導要領 (平成29年告示)」
- 文部科学省 (2017) 「中学校学習指導要領 (平成29年告示)」
- 文部科学省 (2018) 「高等学校学習指導要領 (平成30年告示)」
- Anne Frank (Author), B.M. Mooyart (Translator), Eleanor Roosevelt (Introduction) (1993) *THE DIARY OF A YOUNG GIRL*. Bantam; Reissue edition
- ERIN GRUWELL (2007) *Teach With Your Heart*. BROADWAY BOOKS
- ERIN GRUWELL and THE FREEDOM WRITERS FOUNDATION (2007) *The FREEDOM WRITERS DIARY TEACHER'S GUIDE*. BROADWAY BOOKS
- THE FREEDOM WRITERS with ERIN GRUWELL (1999) *THE FREEDOM WRITERS. DIARY* BROADWAY BOOKS